



エンタープライズ環境での Microsoft* Windows* 8 の導入

インテル® アーキテクチャー搭載デバイスにインストールされた Windows* 8 なら、パフォーマンス、モビリティ、セキュリティ、バッテリー持続時間が最適化された 1 台のデバイスで、タッチ操作と従来のクライアント・ベースのコンピューター操作の両方が可能になります。

John Mahvi
インテル IT 部門
クライアント製品マネージャー

Tiffany Pany
インテル IT 部門
プログラム・マネージャー

Anand Rajavelu
インテル IT 部門
クライアント・プラットフォーム、
エンジニアリング・マネージャー

概要

インテル IT 部門は、現在、ビジネス向け Ultrabook™ デバイスとインテル® アーキテクチャー搭載タブレットの主要オペレーティング・システムとして、Windows* 8¹ の標準化を進めています。ビジネス向け Ultrabook™ デバイスとタブレット導入のペースをスピードアップする一方で、この新しい OS のノートブック PC とデスクトップ PC への普及も図っています。今回の導入計画は、6 カ月間に及ぶ Windows* 8 の詳細な分析と検証に基づいており、これには 300 人以上のユーザーを対象とした試験導入も含まれていました。今回の Windows* 8 の導入では、2011 年に完了している、インテル全社規模の Windows* 7 への移行経験が活かされています。

Windows* 8 は、従来の OS 機能を更新しただけでなく、タッチ操作によってデバイスの操作方法に大きな変化をもたらしました。Windows* 8 は、主流であるエンタープライズ・クライアント・コンピューティングとタッチ中心のユーザー体験を単一のプラットフォームに組み込んでいます。今回の検証から、この組み合わせは、単一デバイス上でタッチ操作と従来のクライアント・ベースのコンピューター操作を実行できるインテル® アーキテクチャー搭載デバイス上で、最も効果的に実現されると考えられます。インテル® アーキテクチャー上で Windows* 8 を使用する利点には、次のようなものがあります。

- 起動時間の短縮
- バッテリー持続時間の向上
- 応答性の向上
- 接続性の改善

- セキュリティの強化
- デバイスに取り付けられたセンサーを活用できる可能性

インテルにおける 4 段階の導入は、まずは最新のデバイスを必要とするユーザーおよび BYOD (社員が所有する機器の利用) の早期申請者から始められ、次に全社員を対象とした標準 PC の更新、OS のアップグレードへと、その対象が拡大されていきます。

¹ 標準的な IT ビルドには Windows* 8 Enterprise Edition を使用しますが、一部のユースケースでは、Windows* 8 Professional が対象となることもあります (詳細については「インテルで使用する Windows* 8 の各バージョン」のコラムを参照してください)。本ホワイトペーパーでは、バージョンの違いを明記する必要がない場合、いずれのバージョンを指す場合にも「Windows* 8」という言葉を用います。

目次

概要.....	1
背景.....	2
エンタープライズ環境における Windows* 8と インテル®アーキテクチャー搭載 タッチ操作可能デバイスの利点.....	3
Windows* 8の導入計画.....	4
第1段階: BYODおよび業務への 早期導入希望者	5
第2段階: アプリケーション開発者および ビジネス向け Ultrabook™ デバイスを所有する社員	5
第3段階: 標準 PC 更新オプション	5
第4段階: 全社規模で一般に利用可能.....	5
検討すべき分野	6
まとめ.....	6
詳細情報	7
略語.....	8

IT@Intel

IT@Intel は IT プロフェッショナル、マネージャー、エグゼクティブが、インテル IT 部門のスタッフや数多くの業界 IT リーダーを通じ、今日の困難な IT 課題に対して成果を発揮してきたツール、手法、戦略、ベスト・プラクティスについて詳しく知るための情報源です。詳細については、<http://www.intel.co.jp/itatintel/> を参照してください。あるいは御社担当のインテル社員までお問い合わせください。

インテルで使用される Windows* 8 の各バージョン

インテルは、エンタープライズ・レベルの OS の特徴と機能に幅広く対応しているという理由から、標準の IT ビルド用に Windows* 8 Enterprise Edition を選択しました。[§] Windows* 8 Enterprise の詳細については、<http://www.microsoft.com/ja-jp/windows/enterprise/products-and-technologies/windows-8/enterprise-edition.aspx> を参照してください。

インテルでは、この新しい OS の他のバージョンも使用されます。例えば、Windows* 8 Professional は、ドメイン参加機能や一部の暗号化対応など、Windows* 8 Enterprise と同じ内蔵セキュリティ機能の多くをサポートしているため、Windows* 8 Professional が、ネットワーク内にエンタープライズ統合機能が必要とするインテルの BYO (社員が個人所有する) PC システムの最小要件となります。

Windows* 8 がもたらす価値を実現する インテル®アーキテクチャー搭載タブレット

Windows* 8 を実行できるデバイスと Windows* RT を実行するデバイスは全くの別物です。インテル® Atom™ プロセッサやインテル® Core™ プロセッサ・ファミリーなど、x86 ベースのプロセッサを搭載したタブレットだけが Windows* 8 を実行できます。Windows* RT がインストールされているタブレットは、その他のバージョンの Windows* 8 にアップグレードすることはできません。

インテルでは、Windows* 8 だけが、セキュリティの強化やレガシー・アプリケーションの互換性を保証し、さらにはインテルのネットワーク内でのデバイスの統合、管理、保護を実現できるアップグレード・パスであると考えています。Windows* RT では、現在のところインテルのエンタープライズ・セキュリティの要件を十分に満たすだけの高度なデバイス管理および暗号化機能は提供できません。そのため、電子メール、連絡先、カレンダーなどの基本的サービスにアクセスするデバイスであっても、Windows* RT ではなく、Windows* 8 が実行されている必要があります。

[§] 標準的な IT ビルドには Windows* 8 Enterprise を使用しますが、特定のユースケースでは Windows* 8 Professional もオプションとして利用可能です。本ホワイトペーパーでは、バージョンの違いを明記する必要がない場合、いずれのバージョンを指す場合にも「Windows* 8」という言葉を用います。

背景

2011 年、インテル IT 部門は、全社 PC を対象に Microsoft* Windows* 7 への移行を完了させました。現在も Windows* 7 からは安定性、応答性、セキュリティなどの恩恵を受けていますが、より優れたユーザー体験の追求と、今後、エンタープライズ環境でタッチ操作のコンピューターが主流となる可能性をふまえて、Windows* 8 の社内評価も並行して進めてきました。6 か月間に及ぶ基準に沿った OS 評価プロセスを経て、インテル IT 部門では、

タッチ操作、セキュリティ、応答性、バッテリー持続時間などの Windows* 8 の利点は、ビジネス向け Ultrabook™ デバイスとインテル®アーキテクチャー搭載タブレットとの組み合わせによってこそ最大の効果を発揮できると結論付けました。現在は、前回の Windows* XP から Windows* 7 への移行で得られた経験を基に、2013 年から始まる Windows* 8 インストール済みのビジネス向け Ultrabook™ デバイスおよびタブレットの全社規模の導入を目指して、インテル社内のコンピューター環境の整備が急ピッチで進められています。

インテルにおける Windows* 8 の評価は、徹底的な機能の評価と、IT 部門の提供したデバイスおよび BYOD（社員が所有する機器の利用）の双方における詳細な OS の検証から始まりました。検証は、ビジネス向け Ultrabook™ デバイス、タブレット、ノートブック PC を含む、タッチ操作対応デバイス、タッチ操作非対応デバイスの両方で実施されました。また、300 名以上を対象とした試験導入プロジェクトなど、ビジネス価値の検証とインテルの IT サポート・ストラクチャーへの Windows* 8 統合の検証を含めた評価が行われました。

この評価結果によると、最新の PC の設計および機能と組み合わせられることで、Windows* 8 はユーザーのモビリティと生産性を向上させることが期待されます。また、インテルのテクノロジーに精通し、早期導入を希望する社員は、Windows* 8 の新機能を活かして、今までにない方法で PC を利用できるようにもなります。インテル IT 部門は、社員に対して早期導入を推奨しました。早期に導入したユーザーは、IT 部門のテクノロジー採用のペースアップに貢献したり、他のユーザーの導入を手伝うだけでなく、最先端で生産的なテクノロジーの活用によってインテル製品の開発速度向上も支援できるからです。

Windows* 8 は単なる OS のアップデートではなく、全く新しいテクノロジーを採用し、さらには従来のキーボードとマウスからタッチ操作へとコンピューター操作の移行を実現する最新の OS です。最も顕著な変化は、Microsoft が「Modern User Interface」(Modern UI) と呼ぶ新しいユーザー・インターフェイスです。² インテルにおける Windows* 8 の評価および検証の結果、タッチ操作のユーザー・インターフェイスはインテルのモバイル業務に最適であることが確認されました。Windows* 8 の Modern UI の利点は、タッチ対応のビジネス向け Ultrabook™ デバイスやインテル® アーキテクチャー搭載タブレットで利用可能なタッチ操作によってはっきりと認識されます (Modern UI の機能はタッチスクリーンでの使用を前提に設計されていますが、従来の Windows* のインターフェイスから利用することもできます)。

² プレリリース版では「Metro UI」と呼ばれていました。

エンタープライズ環境における Windows* 8 とインテル® アーキテクチャー搭載タッチ操作可能デバイスの利点

タッチ操作プラットフォームの採用により、エンタープライズ・コンピューティングは、モバイル環境における各種業務の生産性確保という課題に対して大きく前進しました。特筆すべき最大の特長は、オフィスでのデータ処理プラットフォームとしての利便性と、移動中でのスマートな小型デバイスによる手軽な情報の取得とタッチ操作による処理の両方を、単一の OS が提供できるという点です。

インテル® アーキテクチャー搭載デバイスとの組み合わせによって、Windows* 8 はさまざまな形でインテル社員の生産性向上に貢献します。

- **起動時間の短縮、バッテリー持続時間の向上、応答性の強化:** 早い段階から検証に参加したユーザーは、Windows* 8 システムでは起動時間が 30% 程度短縮され、1 回の充電によるバッテリー持続時間、および Windows* 7 と比較した場合のシステム応答性についても向上が見られたと報告しています。

- **動的なデスクトップにリアルタイムの情報を表示:** デスクトップ上にある一般的なショートカット・アイコンは、動的なタイルに置き換わりました。例えば、RSS フィードタイルには最新のニュース記事が表示されます。また、動的に表示されるデスクトップは、同僚との「つながり」や迅速なコラボレーションを支援します。デバイスや操作状況に応じた選択肢を表示する豊富な UI 機能によって、よりの確な意思決定が可能になります。

- **接続性の改善:** インテルにはモバイルワーカーも多く、彼らがいつでもどこでも接続性と生産性を確保する上で、Microsoft* Connected Standby およびインテル® スマート・コネクト・テクノロジー、シームレスなローミング、Near Field Communication (NFC) サポートなどの機能は不可欠です。

- **セキュリティの強化:** インテル® Core™ vPro™ プロセッサ・ファミリー搭載の Ultrabook™ デバイスに内蔵されているハードウェア・ベースのセキュリティ機能には、インテル® アンチセフト・テクノロジーおよびインテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジーが含まれます。Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) を備えた Windows* 8 は、ルートキットによる危険性を低減または排除するセキュアブートに対応しています。

- **センサー活用の可能性:** 近年、OEM メーカーは、センサーや Near Field Communication (NFC) チップなど、スマートフォンによく見られる機能を追加して、PC の機能を拡張しています。新しいデバイスの中には、NFC を使った支払い機能と認証に対応している機種もあります。また、位置センサーと環境センサーにより、豊富なコンテキスト対応アプリケーションや位置情報サービス向けの新しいコンテキストがもたらされます。³

最新機能 (詳細については、「ビジネス向け Ultrabook™ デバイス」のコラムを参照) を備えたインテル® アーキテクチャー搭載タブレットとビジネス向け Ultrabook™ デバイスによって、Windows* 8 の機能との最高の組み合わせが実現されます。

³ 「Getting a Headstart on Location-based Services in the Enterprise」を参照してください。



ビジネス向け Ultrabook™ デバイス

インテル IT 部門は、社員の生産性の向上にとってビジネス向け Ultrabook™ デバイスには大きな利点があると判断し（詳しくは、ホワイトペーパー「[エンタープライズ環境における Ultrabook™ デバイスの評価](#)」を参照）、2013 年以降、インテルの通常の PC 更新サイクルにおいて、このデバイスを全社員向けの選択肢の 1 つとすることに決定しました。

ビジネス向け Ultrabook™ デバイスは、エンタープライズ・セキュリティー機能を犠牲にすることなく、ユーザーのモビリティを強化し、さらに Windows* 8 と組み合わせることで、インテルの現在および将来的なビジネス要件を満たします。ビジネス向け Ultrabook™ デバイスは、IT 部門が求める安定して予測可能なフットプリントを提供する一方で、スマートで持ち運びしやすいデバイスが欲しいという社員の欲求にも応えます。ビジネス向け Ultrabook™ デバイスのフォームファクター自体が、今までにない環境での活用につながり、Windows* 8 の利点を最大限に活かすマルチデバイスのタッチ対応ユーザー向けモデルの中心的存在として活躍します。例えば、コンバーチブル型のビジネス向け Ultrabook™ デバイスは、ノートブック PC からタブレットに簡単に切り替えられる 1 台 2 役のデバイスであるため、社員は自分の業務に合った適切なツールとして活用でき、IT 部門にとっても維持管理の対象となるデバイス数の抑制につながります。

ビジネス向け Ultrabook™ デバイスは、長時間持続するバッテリー性能、インスタントオン機能、スマートなフォームファクターを特長とし、モバイルワーカーの多いインテルには最適な選択肢であるとともに、通常のおフィスワークにも対応できます。さらに、インテル® アーキテクチャーを搭載したビジネス向け Ultrabook™ デバイスのセキュリティー機能、統合サポート、堅牢な設計は、すべてエンタープライズ・コンピューティング環境に適したものとなっています。

- **プラットフォーム:** インテル® Core™ vPro™ プロセッサを搭載したビジネス向け Ultrabook™ デバイスは、複数リリースや地域の違いを越えて一貫性のあるイメージを持つ、完全に管理しやすいプラットフォームを実現します。応答性の高いフラッシュベースのストレージを備え、ディスク全体を暗号化しながらパフォーマンスを確保します。その他の利点としては、インテル® ラピッド・スタート・テクノロジー、インテル® スマート・レスポンス・テクノロジー、インテル® HD グラフィックスなどが挙げられます。
- **セキュリティー:** このプラットフォームには優れた管理機能とセキュリティーが内蔵されています。インテル® アーキテクチャーを搭載したビジネス向け Ultrabook™ デバイスは、ハードウェア・ベースの暗号化、インテル® アンチセフト・テクノロジー、インテル® アイデンティティー・プロテクション・テクノロジー、および電源オフや無効化された状態でもリモートデバイスを安全に管理するための機能を備えています。
- **統合機能:** ビジネス向け Ultrabook™ デバイスには、プラットフォーム・センサー、エンタープライズ・クラスの Wi-Fi*、ハイスピード I/O が内蔵されています。
- **堅牢な設計:** ビジネス向け Ultrabook™ デバイスは信頼性と耐久性に優れています。具体的には、他の消費者向けのデバイスと比較して、バッテリーの交換、メモリー増設、ドライブのアップグレードが容易です。こうした設計により、ビジネス向け Ultrabook™ デバイスには、3 年間限定保証を付加することが可能になっています。

Windows* 8 の導入計画

インテル IT 部門は、インテルのエンタープライズ環境で使用されるビジネス向け Ultrabook™ デバイス（タッチ操作対応およびタッチ操作非対応機種）とタブレットの標準 OS を Windows* 8 にするための取り組みを急ピッチで進めています。将来的には、Ultrabook™ デバイスとタブレット以外のデバイスを所有する社員にとっても、Windows* 8 は OS の選択肢の 1 つとなる予定です。

Windows* 8 の導入を促進するにあたり、すでに完了している Windows* 7 への移行から学んだ経験は非常に役立っています。例えば、インテル® Solid-State Drive などの新しいハードウェアと新しいソフトウェアとの組み合わせによって、従業員の生産性、運用管理、コスト効率などの点で、大きなメリットが企業にもたらされます。また、あらかじめ Windows* 8 の徹底的な評価を実施することで、業務上のニーズを満たす目的で行われる急速な導入に伴うリスクも低く抑えられます。

初期の試験運用プロジェクトには 300 人の社員が参加しましたが、そのほかに 100 人程度の早期導入希望者もいました。これらの社員の職種は、各部門の事務職や開発者から役員まで多岐に渡ります。参加者は、ビジネス向け Ultrabook™ デバイス、タブレット、ノートブック PC など、さまざまなタッチ対応およびタッチ非対応デバイス上で Windows* 8 を使用しています。今後、2013 年の始めまでには、さらに 1,500 名ほどの Windows* 8 ユーザーを増やす予定です。

Windows* 8 導入の取り組みの一環として、徹底的なアプリケーション準備プロセスも実施されます。これには、Windows* XP から Windows* 7 への移行時に作成されたベスト・プラクティスが用いられます。⁴ インテルでは、新しい要件と Windows* 8 の機能に対応するため、必要に応じてこうしたベスト・プラクティスを適用します。

インテルにおける Windows* 8 の導入は、図 1 の概略に示すように、4 つの段階を経て進められます。各段階の詳細な内容について

⁴ 「[Best Practices for Migrating a Large Enterprise to Microsoft Windows 7*](#)」を参照してください。

は、この後の章で説明します。2013 年度末までに、約 15,000 名の社員が Windows* 8 搭載システムを手にする予定です。ただし、用途および業務スタイルの違いからも、単一の導入戦略ですべての社員のニーズに対応できないことは明らかです。したがって、戦略の基本は、社員に対して数多くのハードウェアおよびソフトウェアの選択肢を提供することです。4 段階の Windows* 8 導入プロセスを進めるにあたって、インテル IT 部門は、社員それぞれの作業環境に状況に応じて適切なデバイス、アプリケーション、オペレーティング・システムが入手可能になるように努めていきます。

第 1 段階: BYOD および業務への早期導入希望者

導入の第 1 段階は 2012 年 11 月に開始され、Windows* 8 に関心を示した社員や業務上必要としていた社員、合わせて 100 名ほどが使用している PC に「早期導入用ビルド」の Windows* 8 が導入されました。IT 部門からアップグレード済みの PC を支給された社員もいれば、Windows* 8 の BYO プライマリー PC プログラムへの参加を選択した社員もいました。また、この第 1 段階には、タブレットへの Windows* 8 導入サポートも含まれます。

このビルドは、ベータ版ソフトウェアの導入によって発生するさまざまな問題に対応できる社員向けと位置付けられています。そのため、この段階で導入に踏み切ったユーザーは、技術サポートセンター (TAC) やサービスセンターのサポートを受けることなく、社内のソーシャル・コラボレーション・プラットフォームを利用して自力で問題を解決することになります。

第 2 段階: アプリケーション開発者およびビジネス向け Ultrabook™ デバイスを所有する社員

第 2 段階は 2013 年の早期に開始される予定であり、インテル® アプリケーションを準備する開発者、業務上タッチ対応 PC に Windows* 8 を導入する必要がある社員、さらには Windows* 8 の導入を強く望む社員が対象になります。この段階では、アプリケーション準備プロセスに関わるアプリケーション開発者およびテスター、早期導入者として Windows* 8 への移行を希望する社員など、およそ 1,500 名のユーザーが対象となります (現在使用中のビジネス向け Ultrabook™ デバイスまたはインテルの早期導入版ビルドが対応するその他のプラットフォームのいずれか)。

この時点では、Windows* 8 に対する TAC およびサービスセンターのサポートも開始されていますが、アプリケーション準備テストの途中であるため、第 2 段階のビルドには引き続き高いリスクが伴うものと考えられます。さらに、この段階で、タッチ操作に対応した新設計のビジネス向け Ultrabook™ デバイスを使った試験的プロジェクトも実施される予定です。

第 3 段階: 標準 PC 更新オプション

第 3 段階では、Windows* 8 がインテル標準の PC 更新プロセスの選択肢の 1 つとなります。この時点で、定期的な更新サイクルに従って PC を入れ替える社員や新入社員が主に利用する PC 向けには、Windows* 7、Windows* 8 Enterprise ビルドのいずれかがオプションとして選択可能になります (ノートブック PC、ビジネス向け Ultrabook™ デ

バイス、デスクトップ PC、またはインテル® Core™ vPro™ プロセッサ搭載タブレット)。エンタープライズでの使用に耐えるリモート管理、セキュリティ、コラボレーション機能をサポートしているという理由から、標準 IT ビルド向けのプライマリー PC としてはインテル® Core™ i5 vPro™ プロセッサを搭載したシステムのみが使用されます。

また、インテル® Core™ プロセッサ・ファミリーまたはインテル® Atom™ プロセッサを搭載したタブレットのユーザーは、第 3 段階において、プレミアムサービス (IT 部門が管理し、現在 PC 上で利用可能な全アプリケーションへのネットワーク・アクセスが可能) またはベーシックサービス (電子メール、カレンダー、コンタクトへのアクセスのみ) に登録することができます。各サービスの詳細については、「Windows* 8 対応タブレット向けベーシックサービスとプレミアムサービスの内容」のコラムを参照してください。

第 4 段階: 全社規模で一般に利用可能

図 2 に示すように、最後のこの段階では、Windows* 8 がビジネス向け Ultrabook™ デバイスの標準配布 OS となります。ただし、PC の更新時に、ビジネス向け Ultrabook™ デバイス以外のフォームファクターを選択した社員は、Windows* 7 か Windows* 8 のいずれかを選択することが可能です。古いシステムを使用していて、Windows* 7 からのアップグレードを希望する社員には、アップグレードはオプションとして提供されますが、必須ではありません。当面は、両方の OS のサポートが継続されます。この段階では、ベータ版のコンポーネントもなくなり、アプリケーション準備プロセスもほぼ終了しています。

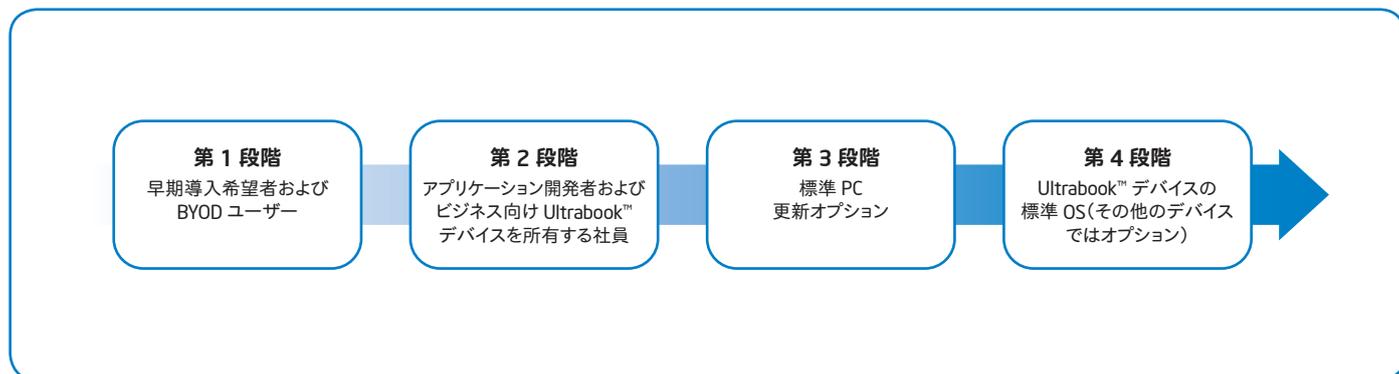


図 1. 段階ごとの Windows* 8 導入により新しいオペレーティング・システムへの移行がスムーズに

Windows* 8 対応タブレット向けベーシックサービスとプレミアムサービスの内容

Windows* 8 導入の第 1 段階では、Windows* 8 を実行している BYO デバイスおよび各部門から支給されるタブレットに対して、新しい概念実証 (PoC) を目的として、インテル IT サービスに追加されているサービスのサブセットへのアクセス権限が提供されます。この PoC が策定されたきっかけは、コンパニオン・タブレット (デスクトップ PC およびノートブック PC のユーザーに対して提供される 2 台目のデバイス) を申請した主要ビジネスユニットに対して、特定のモバイル用途における生産性を向上するための広範囲なエンタープライズ統合が認可されたことでした。

現在提供されているサービスレベルは以下の 2 種類です。

- ベーシックサービス:** このサービスレベルは、現行の BYOD サービスの内容と同等で、電子メール、カレンダー、連絡先へのアクセスのみが含まれます。通常、ベーシックサービスは、主に個人の用途に使用しているタブレットをインテルのネットワークに接続して、電子メールを読んだりカレンダーの予定を確認することを望む社員によって利用されています。現在のところベーシックサービスは、Windows* RT 対応デバイスでは利用できません。これは、Windows* RT デバイスにおいて、管理機能の一部の制限機能と暗号化オプションが欠如しているためです
- プレミアムサービス:** この新サービスには、上記ベーシックサービスの内容に加えて、インテルのネットワークへの直接的なアクセス、およびオフィス・アプリケーション、接続アプリケーション、ディスク全体の暗号化、VPN 接続などの標準的な業務用アプリケーションが含まれます。このサービスは、会社所有のデバイス、あるいは個人所有であっても、少なくとも Windows* 8 Professional が稼働しているインテル* アーキテクチャー搭載タブレットでのみ利用可能です。一般には、プレミアムサービスは、出張中やミーティングに出席する際の作業用コンパニオン・デバイスとしてタブレットを使用するユーザーによって利用されています。

検討すべき分野

全社規模で Windows* 8 の導入を進めている間も、インテル* アーキテクチャー搭載デバイスと Windows* 8 の組み合わせによって、新たなメリットが生まれる可能性のある関連分野についての検証は継続されます。具体的には、以下の分野が対象となります。

- タッチ操作ユーザー・インターフェイスの人間工学的影響:** IT の安全性および人間工学プログラムでは、安全性と人間工学の問題に特化された全社的なプロセスを確立し、組織およびインテル全体の安全性の問題の可視性を改善してきました。さらに、このプログラムを通じてアンケート調査と動作に関する研究を実施して、タッチ操作ユーザー・インターフェイスの人間工学的利点 (および潜在的危険性) について検証し、その結果に応じて社内のトレーニングとツールの調整を行います。
- 新しい周辺機器エコシステム:** インテル IT 部門は、多種多様なフォームファクターを数多く採り入れた、次世代の職場環境の整備を積極的に進めています。また、消費者市場に新しいデバイスが早いペースで発表され続けている中、インテル IT 部門は、全く新しいフォームファクター、各種機能、デバイスをサポートするエコシステムへの対応方法についても積極的に模索しています。具体例としては、タッチスクリーンのモニターとタッチパッド、Near Field Communication (NFC) 対応デバイス、特に重要性が高い、新しい USB とワイヤレ

ス・ドッキング・ステーションを介したキーボードとマウスなどの周辺機器のサポートなどが挙げられます。

- アプリケーションの有効化とアップデート:** 今回の Windows* 8 の初期導入プロセスには、Web アプリケーションとクライアント・アプリケーションが Windows* 8 環境で機能することを確認するためのアプリケーション準備プロセスも含まれています。使いやすさを向上させて社員の生産性を高めるために、今後もタッチ操作と Windows* Modern UI のサポートを継続していく予定です。
- モバイルデバイス管理 (MDM) ソリューションの検討:** 現在、インテル IT 部門は積極的に Windows* 8 対応タブレット向けの MDM ソリューションについて調査しています (「エンタープライズ環境におけるインテル* アーキテクチャー搭載タブレットの利点」のコラムを参照してください)。今年の中頃には、ソリューションの本格稼働が開始される予定です。

まとめ

インテル IT 部門では、Windows* 8 とビジネス向け Ultrabook™ デバイスおよびタブレットなどのインテル* アーキテクチャー搭載デバイスとの組み合わせが、企業にもたらす利点について検証してきました。こうした検証の結果と、以前の Windows* 7 への移

Windows* 8 の導入が完了した場合



ビジネス向け Ultrabook™ デバイス

各種センサーおよびタッチ操作をサポートしているため、Windows* 8 が標準配布となります。



その他のデバイス

社員は業務上の必要性和自分の希望に応じて、Windows* 8 または Windows* 7 を選択できます。

図 2. Windows* 8 は、ビジネス向け Ultrabook™ デバイスへの標準配布 OS になり、その他のデバイスでは選択可能なオプションになります。

行の経験から得たノウハウを活かすことで、インテルは、通常よりもかなり前倒しのスケジュールに従って、Windows* 8 の導入を進めています。単なる製品アップデートに留まらない Windows* 8 の新しいユーザー・インターフェイスは、タッチ操作にも対応し、モバイル環境におけるあらゆる業務の生産性低下への対処を可能にします。

Windows* 8 がインストールされたインテル* アーキテクチャー搭載デバイスが実現する利点としては、起動時間の短縮、バッテリー持続時間の向上、応答性の向上、接続性の改善、強化されたセキュリティ、デバイスに搭載された各種センサーが利用できる潜在的な能力などが挙げられます。これらの新しいデバイスには、Windows* 8 の特長を最大限に活かせる機能が内蔵されています。そして、こうした機能は、インテル社内におけるインテル* アーキテクチャー搭載タブレットとビジネス向け Ultrabook™ デバイスの利用を拡大する推進力になります。

今後は、ビジネス向け Ultrabook™ デバイス（タッチ対応、標準的なキーボードとマウス操作、コンバーチブル型）、タブレット、ノートブック PC など、あらゆるフォームファクターへの Windows* 8 の導入を全社規模で進めていきます。導入は、早期導入希望者や BYO デバイスユーザーによる試験導入から始まり、アプリケーション開発者やすでにビジネス向け Ultrabook™ デバイスを使用している社員向けのアップグレードへと段階的に続きます。次に導入の対象をさらに広げて、標準 PC 更新オプションとして Windows* 8 を提供します。

インテル IT 部門のベスト・プラクティスの詳細については、<http://www.intel.co.jp/itatintel/> を参照してください。

そして最終的には、全社の誰もが Windows* 8 へとアップグレードできるようにします。

2013 年度の導入を通じて、Windows* 8 搭載機器はさらに増加することが予想されます。インテル IT 部門はその間も、インテル* アーキテクチャー搭載デバイスと組み合わせることで企業にさらなる利点をもたらす可能性のある Windows* 8 の各種機能の活用領域について、検証を続けます。

詳細情報

- [「Evaluating Microsoft Windows* 8 Security on Intel* Architecture Tablets」](#)
- [「Getting a Headstart on Location-based Services in the Enterprise」](#)
- [「インテル* アーキテクチャーを搭載したタブレットによる施設運営の改善」](#)
- [「エンタープライズ環境における Ultrabook™ デバイスの評価」](#)
- [「Why the Device Matters in a Cloud-Centric World」](#)
- [「Preparing the Enterprise for the Impact of Alternative Form Factors」](#)
- [「Deploying Business Ultrabook™ Devices in the Enterprise」](#)

エンタープライズ環境におけるインテル* アーキテクチャー搭載タブレットの利点

Windows* 8 がインストールされたインテル* アーキテクチャー搭載タブレットは、インテル社員が求めるモビリティと使いやすさを実現するとともに、インテル IT 部門が必要とするセキュリティ、管理のしやすさ、統合の容易さ、TCO の削減ももたらします。インテル* Atom™ プロセッサ、インテル* Core™ プロセッサ・ファミリー、およびインテル* Core™ vPro™ プロセッサを搭載するタブレットは、薄型のスマートなデザインを特長とし、モバイルワーカーの多いインテルのモバイル・ユース・ケースの要件に応えます。インテル* Atom™ プロセッサを搭載したタブレットは、1 台目の PC としては十分なパフォーマンスとセキュリティ機能を備えていませんが、インテルのモバイルワーカー向けの優れたモバイル・コンパニオン・デバイスとして効果を発揮することが期待されています。

例えば、製造施設での運用におけるタブレットの有用性を検証するために、インテルでは最近、ある概念実証が実施されました。そこでは、技術者は、完了した作業指示書の数において、最大で 17% の生産性改善が認められたと報告しています（詳細については、ホワイトペーパー「[インテル* アーキテクチャーを搭載したタブレットによる施設運営の改善](#)」を参照してください）。

エンタープライズ環境におけるインテル* アーキテクチャー搭載タブレット（世界中の主要なハードウェア・メーカーから入手可能）の利点には、次のようなものがあります。

- バッテリー持続時間の向上（場合によっては終日持続）
- エンタープライズ・レベルのマルチタスクおよびコラボレーション機能
- 応答性の高いタッチ操作ユーザー・インターフェイス
- 先進的なセキュリティと管理機能
- 幅広い既存アプリケーションとの互換性
- 接続性の向上

略語

BYO	Bring-Your-Own (社員が個人所有する)
BYOD	Bring-Your-Own-Device (社員が所有する機器 の利用)
MDM	モバイルデバイス管理
Modern UI	Modern User Interface
PoC	概念実証
NFC	Near Field Communication
TAC	技術サポートセンター

インテル® vPro™ テクノロジーは高度な機能であり、利用するにはセットアップと有効化を行う必要があります。利用できる機能と得られる結果は、ハードウェア、ソフトウェア、IT 環境のセットアップと構成によって異なります。多彩なセキュリティ機能の詳細については、<http://www.intel.com/technology/vpro/> (英語) を参照してください。

インテル® アンチセフト・テクノロジー (インテル® AT) : すべての条件下で絶対的なセキュリティを提供できるシステムはありません。同テクノロジーに対応したチップセット、BIOS、ファームウェア、ソフトウェアを搭載したシステムと、同テクノロジーに対応したサービス・プロバイダーのサービスへの加入が必要です。対応状況と機能については、各システムメーカーとサービス・プロバイダーにお問い合わせください。データやシステムの紛失や盗難など、サービス利用の結果生じたいかなる損害に対してもインテルは責任を負いません。詳細については、<http://www.intel.com/go/anti-theft/> (英語) を参照してください。

インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジー (インテル® IPT) : すべての条件下で絶対的なセキュリティを提供できるシステムはありません。インテル® IPT に対応した第 2 世代インテル® Core™ プロセッサを搭載したシステム、および同テクノロジーに対応したチップセット、ファームウェア、ソフトウェア、インテル® IPT に対応した Web サイトが必要です。各システムメーカーにお問い合わせください。データやシステムの紛失や盗難など、サービス利用の結果生じたいかなる損害に対してもインテルは責任を負いません。詳細については、<http://ipt.intel.com/> (英語) を参照してください。

インテル® ラピッド・スタート・テクノロジー: 一部のインテル® Core™ プロセッサ・ファミリー、インテル® ソフトウェアおよび BIOS のアップデート、インテル® Solid-State Drive (インテル® SSD) が必要です。実際の結果はシステム構成によって異なります。詳細については、各システムメーカーにお問い合わせください。

この文書は情報提供のみを目的としています。この文書は現状のまま提供され、いかなる保証もいたしません。ここにいう保証には、商品適格性、他者の権利の非侵害性、特定目的への適合性、また、あらゆる提案書、仕様書、見本から生じる保証を含みますが、これらに限定されるものではありません。インテルはこの仕様の情報の使用に関する財産権の侵害を含む、いかなる責任も負いません。また、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるものとらざにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスも許諾するものではありません。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Atom、Intel Core、Intel vPro、Ultrabook は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation および/またはその関連会社の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1

<http://www.intel.com/jp/>

©2013 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

2013 年 4 月

328166-001JA

JPN/1304/PDF/SE/IT/TC

